建材マンスリー

No.718 8 AUGUST 2025

特集

大阪･関西万博
木の可能性を世界へ

編集室の商品ピックアップ

大阪・関西万博で採用された“実はすごい”建材

注目企業を訪ねる

株式会社ビジョナリー

特集

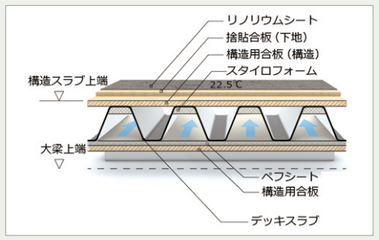
大阪・関西万博
木の可能性を世界へ

2025年4月13日から10月13日まで開催中の大阪・関西万博。世界の文化や最先端技術に直接触れられる中で、見どころの一つとなっているのがそれぞれのコンセプトを体現する革新的な建築物だ。とりわけ仕上げや外装に大胆に木材を活用したパビリオンが目を引き、建材としての木の可能性を感じさせる。そこで今号では、編集室が注目した木質系パビリオンを紹介する。

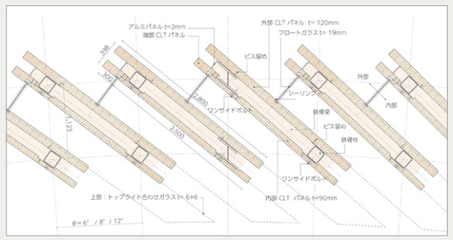
日本館
CLTが魅せる“いのちの循環”

●概要
- 発注者：経済産業省、国土交通省
- 事業主体：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
- 敷地面積：約12,950㎡
- 構造：鉄骨造 地上2階建て
国産CLTを560枚280組
（建物全体で約1,600㎥）使用
- 工期：約17カ月
- 総合プロデューサー、総合デザイナー：
佐藤オオキ
- 建築デザイン、建築設計及び展示内装設計：
株式会社日建設計
- 建築施工：清水建設株式会社

撮影：鈴木研一

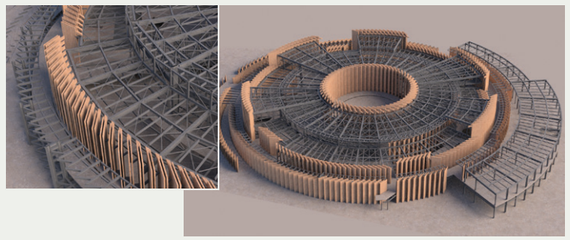


床は、建物の軽量化と解体容易性のため、スチール製のデッキプレートに構造用合板をビスで一体化することで剛性を持たせ、コンクリートを使用しない構造とした。デッキプレートと構造用合板の間に生じる隙間を床吹き出し空調のためのダクトとしても活用している

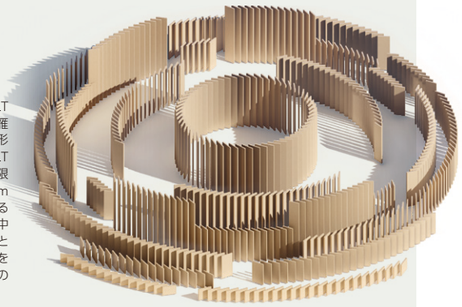


CLTをそのまま外壁として利用するため、屋外に露出する部分は1層分を保護層として増し張りした。保護層部分にスリット加工を行い、直接ガラスをはめ込んでいる。接着性とCLTへの油じみ防止を考慮し、シリル化アクリレート系シーリング材を使用した

鉄骨フレームを2枚のCLTでサンドイッチしたユニットとし、ユニット間にはガラスをはめ込むことで、自然光や視線が抜ける空間としている。施工上もこのユニットを地組みすることで工期短縮が図られた



主架構は鉄骨。放射状にラーメン架構を均等ピッチで配置し、円周方向は各フレーム間を小梁でつなぐシンプルな構造。小梁から斜めに張り出た鉄骨をCLTで挟み、CLTを立ち上げた佇まいを表現するとともに、耐震壁としての役割を持たせている



「循環」を表現するため、CLTを建物の円周方向に沿って雁行した配置とすることで円形の建物を構成。使用したCLTはリユース時の制約を最小限にするため最大12m×2.8mと、工場で製造し搬送できる最大級の大きさ。CLTを中心とした象徴的なデザインとし、空間ボリュームに変化を持たせることで、リズム感のある全体像を作っている

日本館のコンセプトは「いのちと、いのちの、あいだに」。CLTを円環形状に配置し、「いのちの循環」を表現しています。木材は循環を象徴する材料であり、とりわけ小径木をラミナとして積層させた大判のCLTは木材活用の可能性を高める建材です。今回使用したCLTの一部は一般社団法人日本CLT協会から貸与されたもので、会期後に返却され企業や自治体等でリユースされる予定となっています。こうした取り組みを含め、コンセプトにふさわしい材料であるCLTを活用し、解体・再利用しやすいようなるべく加工しないで「循環」を表現する方法を模索しました。

そこで行き着いたのが、円周方向に沿ってドミノのようにCLTを配置することで、四角い板のまま「循環」を表現する円環形状の建築物です。またCLTを象徴的に見せるデザインにこだわり、装飾を排除することにしました。

構造は、鉄骨を主架構として放射状に配置し、鉄骨をCLTで挟み込んだユニットをつなぎ耐震壁として利用しています。このユニットは、あらゆる風向きに耐えられるよう、右回りと左回りの互い違いに配置。

ユニット間は、意匠性と解体後の廃棄物削減を考慮し、サッシを挟まずガラスを直接はめ込んだだけのシンプルな構成としました。反りや収縮などCLTの変形によるガラスの破損については、割れないどころかむしろCLTの変形を抑える役割を果たすことも確認しています。CLTと鉄骨の接合では、解体を考え接着剤を用いないボルト接合とし、外壁面にボルトを見せないよう内側から止めるなどデザイン性の工夫も施しました。

CLTユニットの設置角度や展示空間との調整など試行錯誤しましたが、CLTを構造として活用する新たな道が開けたように思います。CLTはラミナの層数や重ね方によって剛性や耐力を調整できることから、鉄骨やコンクリートとのハイブリッド化にも適応しやすく、組み合わせることによって可能性が広がるのではないかと期待しています。

株式会社日建設計

構造設計グループ ダイレクター	設計グループ アソシエイト	設計グループ ダイレクター
江坂 佳賢氏	高橋 恵多氏	高橋 秀通氏

住友館

構造用合板が導く新しい木質建築のカタチ

● 概要
- 建築面積：2,101.92㎡
- 構造：鉄骨造 地上2階建て
  ヒノキ原木（スギと合わせて約1,000本）から製造した
  構造用合板約6,600枚を使用
- 工期：2023年12月～2024年12月末（建築工事）
- 基本設計：株式会社電通ライブ／株式会社日建設計
- 実施設計：株式会社電通ライブ／三井住友建設株式会社
- 施工：三井住友建設・住友林業特別共同企業体

© Sumitomo EXPO2025 Promotion Committee [Photo by Akira Ito]

住友グループは愛媛県の別子銅山で銅の採掘精錬を始めたことで大きく発展し、明治期には銅山採掘により失われた森に植林を行い再生してきた歴史があります。この歴史から学び、設計に生かすことを考えたとき、「一本一本のいのちを大切にしたい」という住友館の設計コンセプトが生まれました。

そこで、住友館では最小限の木材利用で最大限の表現をしたいと考え、歩留まりの良い構造用合板を仕上げ材としています。また合板の活用は、地盤が弱いため建物を軽量化したいという狙いにも合致しました。さらに、使用する合板は、住友グループである住友林業の社有林から切り出した原木で製造されており、余った芯棒はバビリオンのベンチなどに利用し、木を余すことなく活用しています。外壁には、前回の大阪万博が開催された1970年に「住友の森」に植えられたスギを使用しており、今回も伐採した場所に植林をする予定です。

デザイン面では、展示室は平面と高い吹き抜けを持つ2つの棟で構成することが決まっていたので、ただ横並びにするのではなく一つのデザインとして表現したいと思いました。そこで生まれたのが、別子の山並みを連想させる曲面のシルエットです。骨組みを鉄骨とし、直線を少しずつ角度をずらして連続させることで2方向に湾曲した曲面を作った事例がなく、ゼロからのスタートでした。まずはBIMで設計上のねじれ量を求め、合板をねじれるか検証し、強度を保ちつつ人力できれいにねじれるベストな厚みが9㎜と判明。原寸模型を作りビスの強度やピッチなどの検証も重ね、その結果を実際の建設現場にフィードバックしました。

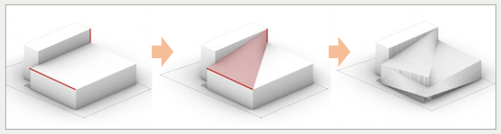
外壁として合板を長期間使用するのは耐久性の点から課題もありますが、新しい木質建築の提案ができたと考えており、今回の手法は様々な事例に応用できるはずです。建物の木造・木質化は今後も進んでいくと予想されます。ただやみくもに使うのではなく、どう使うかが重要になるのではないでしょうか。

株式会社電通ライブ
2025EXPOユニット
建築プロデューサー
本間 誠也氏

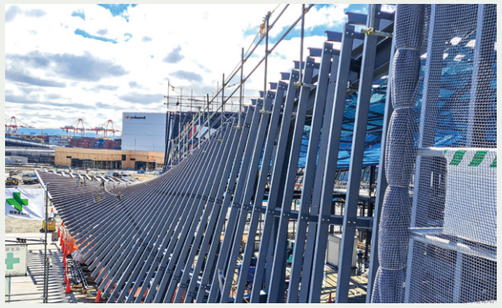
株式会社日建設計
設計グループ
アソシエイト
白井 尚太郎氏

三井住友建設
住友林業特別共同企業体
万博住友館作業所 所長
知浦 豊氏

別子の山の峰を想起させるシルエット



２棟の縦と横（赤いライン）をつなぎ一体化されたデザインを目指した（CG作成：日建設計）



鉄骨を少しずつ角度をずらして連続させることで2方向に湾曲した曲面となる「HP曲面」を採用（写真：三井住友建設・住友林業特別共同企業体）

屋根は鉄骨の上に下地材＋断熱材＋防水シート、木材保護塗料（ガードラック）を塗った9㎜のヒノキの構造用合板を重ね合わせる構造。合板と合板の間に設けた50㎜の溝は、排水経路になるとともに木材の収縮などに耐える役割も果たしている
（写真：三井住友建設・住友林業特別共同企業体）

ギネスに認定された世界最大の木造建築物

大屋根リング

“多様でありながら、ひとつ”という会場デザインを体現する、大阪・関西万博のシンボル「大屋根リング」。屋根の下の、来場者を日差しや雨から守る歩行空間としての機能に加え、屋上には3万2,500㎡に及ぶ植栽と「スカイウォーク」と呼ばれる回廊があり、会場全体を見渡せる。円周は約２km、使用された木材はおよそ2万7,000㎥で、世界最大の木造建築物としてギネス世界記録に認定された。

清水寺の舞台をはじめ日本の神社仏閣などに使用されてきた伝統的な貫接合*に現代の工法を組み合わせて剛性を高め、「つくりやすく、解体しやすく、転用しやすい」架構形式となっている。木架構はやぐら状のユニット架構とつなぎ梁（はり）を組み合わせており、ユニット架構は420㎜角の柱材・210×420㎜の梁材を基本に3.6mグリッドのモジュールとした。これにより、主動線となる空間に7.2mの吹抜けを実現。リング全体は3工区に分けて建設、３つの共同企業体が独自の技術を駆使している。貫接合に用いられる楔（くさび）の形状などは場所により異なることもあり、違いを探してみるのも一つの楽しみ方かもしれない。

＊貫接合：柱などの垂直材に、水平に打ち込まれる板状の部材である貫を貫通させて接合する方法

● 概要
建築面積：61,035.55 ㎡
リングの大きさ：幅約 30m×内周直径約 615m・１周約2km
高さ：約12m（外側約20m）
使用木材：国産（スギ・ヒノキ）7割、外国産（オウシュウアカマツ）3割
実施設計・施工・監理：（北東工区）大林組・大鉄工業・TSUCHIYA共同企業体・株式会社安井建築設計事務所、（南東工区）清水・東急・村本・青木あすなろ共同企業体、（西工区）竹中工務店・南海辰村建設・竹中土木共同企業体・株式会社昭和設計

コラム 万博のちょっとキニナル話

3Dプリンター建築の原料にも活用！生分解性を持つ樹脂で循環型社会に貢献

大阪・関西万博の「大地の広場」で、来場者の休憩施設として活用されている「森になる建築」。3Dプリンターで造形されたこの建築物の原料として採用されているのが、株式会社ダイセルが開発した酢酸セルロース樹脂「CAFBLO®」だ。生分解性を有し、植物由来の循環型素材の一つとして注目されている。

株式会社ダイセル
マテリアルSBU
CAFBLO事業推進部長
樋口 暁浩 氏
※役職は取材時(2025年7月)のもの

「CAFBLO®」は、木材や綿花など植物由来のセルロースと酢酸から得られる酢酸セルロースを原料として製造されるバイオプラスチックです。今回、植物由来であり生分解性があること、植林を実施しているパルプメーカーから原料を購入することで資源循環に貢献できる点などに賛同いただき、竹中工務店様が手掛けた3Dプリンターによる「森になる建築」の原料として採用いただきました。この建築は“生分解性樹脂を構造材として一体造形した、世界最大の3Dプリント建築”として、ギネス世界記録™にも認定されています。

「CAFBLO®」の主な特徴は、生分解性があることです。高い海洋生分解性を示す数少ない素材の一つで、薄く形成されたストローがおよそ15カ月でバラバラに崩壊します。また、黄色ぶどう球菌や大腸菌に対して抗菌性を発揮するとともに、高い透明性があることも特徴です。3Dプリンターで造形できるため、失敗・破損したものは粉砕して再造型するなどマテリアルリサイクルも可能です。

活用方法は様々 海洋での活用にも期待

主な用途としては、ストローの他、カトラリー、釣り用ルアー、メガネのフレームや、今回の万博のように3Dプリンターで展示物などを造形するための原料としても活用いただいています。また、プラスチック製品が海に流出することによる環境影響が世界的な問題となっており、海洋生分解性への機運が高まっています。このような中、藻場再生のために種子を沈める治具への採用や、3年前からは広島県が実施している「GSHIP」※に参加し「CAFBLO®」の循環型モデルについても検証を進めています。このプロジェクトでは、「CAFBLO®」で作った歯ブラシを県内のホテルのアメニティとして採用してもらい使用済みを回収し再樹脂化します。そして、歯ブラシへのリサイクルと、プラスチック材料で作られるカキの養殖用パイプにリサイクルするというものです。養殖用パイプに関しては、現在強度試験を実施しており、実用化できれば資源の循環及び海洋プラスチックごみの削減にも寄与すると考えています。

今後、市場で幅広く「CAFBLO®」が利用されるようになって回収量を増やすことができれば、リサイクル体制の構築も進められます。まずは食品容器など生分解性が求められる分野での需要拡大や、建材への活用も視野に入れて耐火性能の強化も進めていきたいです。建材に関しては、構造に利用するには強度が足りないため、壁紙などの内装材としての活用を目指し、開発を進めていきます。

● 大阪・関西万博「森になる建築」

直径4.65m、高さ2.95m。「CAFBLO®」を3Dプリントしたものを構造材とし、外装材は手すきの和紙や植物などによって構成。生分解性を有する酢酸セルロースを原料とした接着剤やねじの開発にも取り組み、構造以外の資材にも配慮

● 海洋中でのストロー分解の様子

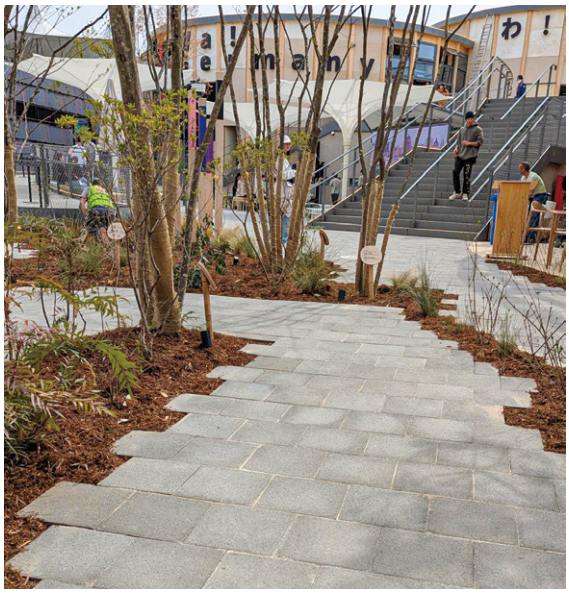
※ 広島県が設立した海洋プラスチックごみ問題に取り組むために企業、団体、行政が連携・協力する「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム」の略称

編集室の

商品ピックアップ Vol. 16

10月13日まで開催中の大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。持続可能な未来の実現に向けた様々な技術が展示・実証されています。今回はそれらを支える一見気づかない“画期的な資材”に目を向けてみました。ぜひこの目線からも万博を楽しんでみてはいかがでしょうか。

大阪・関西万博で採用された“実はすごい”建材



CO_2を固定化する木材混合ブロック「減CO_2(ゲンコツ)ブロック」（ドイツ館のテラスやアプローチ）

株式会社グッドアイ

群馬県内の間伐材を粉砕したウッドチップを含むモルタルブロック。群馬大学と前橋市の企業により共同開発された。ウッドチップとモルタルを特殊加工することで、腐朽菌に浸食されず光合成で吸収したCO_2の再放出を防ぐ他、モルタルが大気中のCO_2を新たに吸収して炭酸カルシウムとして固定化。1枚につき約1,000LのCO_2削減を実現する。木材ならではの保水力で高い打ち水効果を発揮し、ヒートアイランド現象を防止。また、透水性にも優れていることから保水しきれない水は下の土に浸み込み都市型洪水も緩和する。

【仕様】
サイズ：H300㎜×W300㎜×T60㎜／重量：約7.8kg/枚

● 問い合わせ先：株式会社グッドアイ

高い放射冷却機能付き防水シート「イノベーションプルーフRR」（東エントランス案内所の屋根）

SPACECOOL株式会社／ロンシール工業株式会社

【仕様】
サイズ：H10,000㎜×W1,200㎜×T1.75㎜／重量：2.26kg/㎡／素材：塩化ビニル樹脂系／色：1色（イノベーションホワイト）

● 問い合わせ先：ロンシール工業株式会社

高い放射冷却機能と防水機能を併せ持つルーフィングシート。SPACECOOLが開発した反射率・放射率共に最大約95％という高い放射冷却機能を持つ「SPACECOOL®フィルム」を素材に、シート防水業界で初めて遮熱シートを開発したロンシール工業の技術で製品化が実現した。ロンシール工業の汎用品と比較して表面温度は最大20～30℃下がるという測定結果も出ている。屋根に施工することで建物内の温度上昇を抑制し、空調エネルギーの削減に寄与する。

薄くて塩害に強い次世代コンクリート「ハイブリッドプレストレスト コンクリート(HPC)®」（シグネチャーパビリオン河森館の壁パネル）

株式会社HPC沖縄

従来のコンクリートの弱点を解決する“薄い・軽い・塩害に強い”コンクリート。鉄筋の代わりに炭素繊維を用いることで、従来塩害化や中性化による爆裂防止のために必要としていたコンクリートの厚みが不要となり、最小板厚38㎜の薄肉化を実現した。さらに、その塩害に強い特徴を生かしてコンクリートの練り混ぜ水を海水に代替するという革新的な製造技術も開発。海水を貴重な資源にする新たな取り組みとしても注目されている。

【仕様】（河森館）
サイズ：H2,430㎜×W2,548㎜×T40㎜
製作工場：郡家コンクリート工業株式会社

● 問い合わせ先：株式会社HPC沖縄

※ 掲載商品は弊社と取引がない商品も含みます

注目企業を訪ねる

付加価値創造に挑戦

マッチョ×介護が成功のカギ！ 介護業界のイメージ刷新に挑戦し 新たな人材確保を実現

株式会社ビジョナリー

代表取締役社長｜CEO
丹羽 悠介 氏

本社 ● 愛知県名古屋市中区栄1-18-9 TPBビル501
創業 ● 2008年
資本金 ● 1,000万円
従業員 ● 290名
事業内容 ● ①訪問介護 ②児童発達支援 ③放課後等デイサービス ④障害者グループホーム ⑤障害者シェアハウス ⑥訪問看護 ⑦生活介護 ⑧介護に関わるオンラインサービス

ここが注目ポイント

- フィットネス実業団を設立し“マッチョ”をキーワードに採用戦略を展開
- 筋トレに向き合う介護士の姿を通して利用者のマインドを変革
- “介護業界＝かっこいい”というイメージアップに貢献

フィットネス実業団設立で“マッチョ”人材を確保

――「日本一マッチョが多い介護の会社」として注目されているビジョナリー。障害者介護施設を中心に全国で29施設を運営し、人材不足が深刻な介護業界で2024年度の採用実績が前年比25％増となるなど、20代・30代の若い男性からも応募者が集まる。ネガティブな先入観を持たれがちな介護業界のイメージを払拭し、〝介護＝かっこいい〟という新たな価値を発信している。

「私は元美容師で、初めから介護に興味があったわけではありませんでした。しかし、たまたまカットのボランティアを経験したときに介護のやりがいや将来性を実感し、小規模ながら2008年に訪問介護事業を立ち上げました。地域では後発だったこともあり、多くの事業者から敬遠されがちだった障害者介護に取り組み、信頼を得ていきました。事業規模の拡大に伴い障害者介護施設を開設したいと考えましたが、スタッフを募集してもなかなか応募が集まらず、採用には苦戦を強いられました」

――人材確保の方法を考えた丹羽氏は、2つの仮説にたどり着く。一つは介護職の本当の魅力が知られていないのではないかということ。かつての自分と同じように、きっかけは何にせよまずは介護の仕事に触れてもらえば、魅力を感じる人が増えるはずだと考えた。もう一つは、〝介護＝かっこいい〟というイメージを生み出せたら、人は集まるのではないかということだった。

「前職の美容師を目指したのは、メディアなどで目にして〝かっこいい〟と感じたから。これは、様々な行動の原動力につながります。若者に注目され〝かっこいい〟と思われるような人材が介護士として働いていたら、業界のイメージも変わるはずだと考えました。私自身の趣味が筋トレだったこともあり、〝マッチョの採用〟に舵を切ったのです」

――2つの仮説を実現するため、2018年にボディビル競技に出場する選手を育成するフィットネス実業団「7SEAS（セブンシーズ）」を設立。所属する従業員は筋トレ2時間が勤務扱いとなる他、プロテイン代やコンテスト出場費用の支給なども行い、選手活動と並行して介護事業のスタッフとして働くという体制を整えた。SNSでのPRやボディビル大会などに足を運び採用活動を行ったところ、仕事としてトレーニングができる点などが注目され、40名ほどの応募が集まった。

実業団が広告塔となり介護業界での成功事例をつくる

「現在『7SEAS』には5人の選手が所属し、大会出場はもちろんトレーニング風景や介護施設で働く姿などをSNSで発信。彼らが広告塔となり〝介護＝かっこいい〟というイメージアップにつながっています。実業団の採用以外でも、〝かっこいい〟と思ってくれた人などからの応募も増えました。採用前は介護に関心がなかった人も介護に触れることで今ではやりがいをもって従事してくれています」

――実業団設立当初20人だった従業員は、現在290人まで増えている。実業団選手には、セカンドキャリアとして介護の仕事ができるため安心して競技活動を行えるというメリットも。また、実業団以外の従業員がトレーニングを開始するなど、相乗効果も生まれている。

「トレーニングを続ける人は前向きに努力する姿勢が身に付き、その姿を見た施設利用者も前向きなマインドになるという嬉しい変化も見られます。その意味でも〝マッチョ〟をキーワードとした採用戦略は大きな意味があったと思います。介護とは、本人だけでなく周囲の家族も自分の人生を前向きに生きられるようサポートすることです。介護士自身も自分の人生を楽しんでこそ、それが実現できるのではないでしょうか」

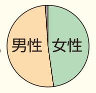
――事業のメインである障害者福祉は、力のある男性介護士の需要が大きい。また、将来にわたり介護が必要な子どもを持つ家庭では、介護士の高齢化が大きな不安材料となっている。そのため、マッチョで若い人材の集まる同社への期待は高い。

「2024年に、障害者やその家族にアウトドアを楽しんでもらうためのコミュニティーを設立しました。イベント開催に当たってはボランティアを募集し、介護に触れてもらう新しい場づくりとしても活用しています。また、今後は事業規模を拡大し、給与水準のアップを目指していきます。国が単価を決めている介護事業は、規模を拡大しないと利益が増えない産業構造です。日本では現状、大手事業者でもシェア率は1％程度と、事業規模拡大に成功しているとはいえない状況です。そのため当社としてはまずシェア率10％を目指し、業界の成功事例をつくっていきたいですね」

業界未経験者比率 54%

年齢	
～24歳	26%
25～29歳	19%
30～34歳	15%
35～39歳	13%
40～44歳	7%
45～49歳	7%
50歳以上	13%

性別



従業員のデータ（2025年7月時点）

「会社の文化」であり「人としての成長基準」

- 感謝を言葉にする
- 配慮はするが、遠慮はしない
- 清潔感のある身なりをする
- 相手の立場で考え、行動する
- どんな時もご機嫌でいる
- また会いたくなるコミュニケーションをとる
- 知識やスキルを学び続け、それを惜しみなく他者にも教える
- 決められた仕事を最後までやり切る
- 緊張の機会を積極的に選ぶ
- 自然に触れ、心を整える習慣を持つ
- 運動習慣を身につける

福祉キャンプコミュニティー「LIFE SCOUTS（ライフスカウツ）」の様子。定期的にキャンプイベントなどを開催している

介護現場での様子。実業団選手以外にも“マッチョ”な男性介護士が数多くおり、筋力を仕事に生かしている

フィットネス実業団「7SEAS」のメンバー。介護事業のスタッフとして働く傍らボディビル競技に出場し成績を残している。また、イベント開催など広告塔としての役割も果たす

「住宅性能表示基準」「評価方法基準」を見直し
—— 国土交通省

2022年に改正・施行された住宅性能表示制度の「住宅性能表示基準」と「評価方法基準」のさらなる見直しに向けて、最終的な検討が行われている。パブリック・コメントの募集を6月26日に終了、施行は本年12月ごろの予定。

【見直し検討事項】

■ 一次エネルギー消費量の上位等級として等級7・8を新たに設定

評価方法基準を改正し、計算式を新たに規定する。評価基準は等級7でBEI*≦0.7（再エネ除く）、等級8でBEI≦0.65（再エネ除く）とする。さらに等級6～8を対象に、コージェネレーション設備を除いた太陽光発電設備などによる一次エネルギー消費量の削減率算出の計算式も定める。

■ CLTパネルを用いた住宅の劣化対策等級の評価に係る規定を整備

CLTパネルを用いた木造住宅において、土台を設けない工法であっても、一定の防水・劣化対策を講じていれば土台の基準を適用せずに評価することを可能にする。要件として①水切りの設置、②防水上有効な措置の施工、③室内から床下への水蒸気供給の遮断が挙げられる。なお、等級2・3の判定では、CLTパネル及び下地材におけるJAS材利用の有無など、外壁の軸組に関する基準により評価する。

■ 室内空気中の化学物質の濃度測定方法を改正

室内空気の採取法の見直しを行い、これまでの「容器採取法」は適さないとして、厚労省による指針「室内空気中化学物質の測定マニュアル（統合版）」から除外する。

＊ BEI：Building Energy Index。エネルギー消費性能計算プログラムに基づく基準建築物と比較した際の設計建築物の一次エネルギー消費量の比率

海外初の木材コンビナート事業を米国で展開
—— 住友林業株式会社

住友林業はルイジアナ州にある製材工場（Teal Jones-Plain Dealing, LLC）をグループ化し、これを核に初の米国木材コンビナート事業*1の展開を目指す。住宅向けのディメンション材（構造部材）や今後需要拡大が見込まれるマスティンバー（大型の木質構造材）の製造を計画。製造過程で出た残渣などはバイオマス発電燃料やバイオリファイナリーなどへの利用も検討し、原木を余すことなく使い切るカスケード利用により木の価値を最大化する。

【事業の特徴】

■ 既存米国事業の強化

本工場周辺は住友林業が米国で住宅事業を積極的に展開するエリアの一つ。既存事業の需要地近郊という立地の優位性を活かし、FITP事業*2を通じて住友林業の分譲住宅事業などへ木材製品を供給。既存事業との相乗効果で事業拡大を目指す。

■ 安定した原材料調達網

原材料のサザンイエローパイン（SYP）は本工場が位置する米国南東部の在来種であり、同地域に幅広く分布している。持続的な森林経営を通じて豊富な森林資源が蓄積されており、森林資源の成長予測と収穫可能量などの分析から、今後も蓄積量が増加する見込み。

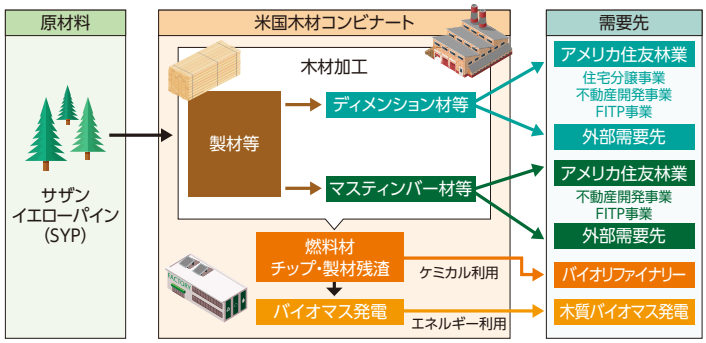
■ 外的要因に影響されにくい事業基盤の構築

米国産SYPの使用により、ウッドショックや米国の関税政策といった外的要因に影響されにくく安定した原材料確保が可能となる。米国現政権下では様々な産業分野で米国内生産比率の上昇が進んでおり、本事業に追い風となる市場環境の創出が期待される。

＊1 木材コンビナート：木材利用からエネルギー利用、ケミカル利用まで価値を高める木材活用を行い、長期の炭素固定を実現する

＊2 FITP事業：壁パネル・床・屋根トラスの設計から製造、配送、施工までをビルダーやデベロッパーに一貫して提供する事業

● 米国木材コンビナート事業



編集室より

■ 弊社ホームページにPDF版を掲載中です。

住友林業　建材マンスリー　検索

■ 送付先の変更、広告掲載・誌面に対するご意見などは以下までご連絡ください。

メールアドレス：kenzai-monthly@sfc.co.jp

住友林業株式会社 木材建材事業本部 業務企画部

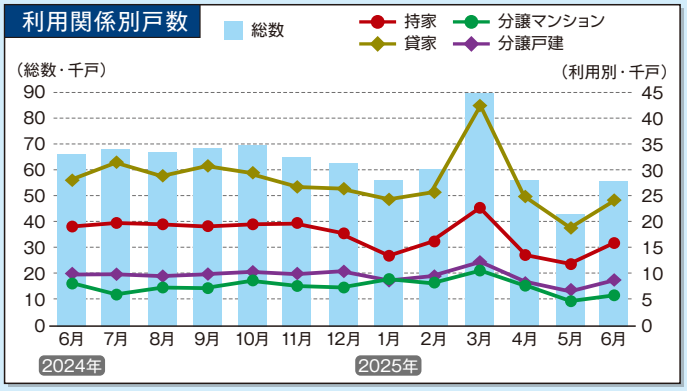
編集後記　今回が最後の編集後記となりました。「チャンスは平等に転がっている。それに察知できるか、飛び乗れる筋力を備えているかで人生は変わる」最近読んだ本で感銘を受けた言葉です。今回の注目企業で“マッチョが生み出す効果”を知り、改めて地道な鍛錬は糧となり価値になると感じました。約10年通算116号の発刊に携わった経験は私にとって貴重な筋トレです。時折いただくご意見も大きな励みとなりました。読者の皆様やご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。(M)

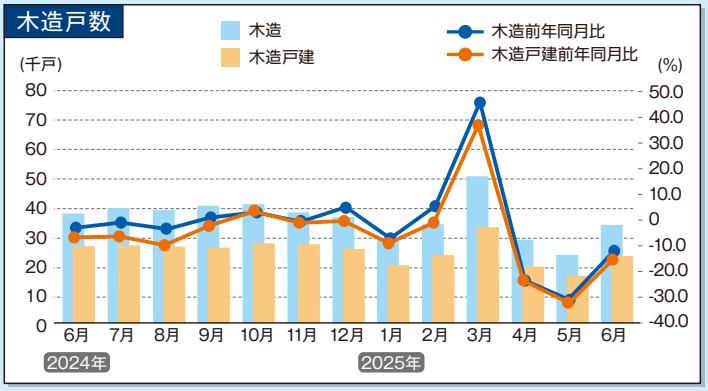
表紙：住友林業（株）住宅事業本部　宇都宮支店　ベルモール展示場

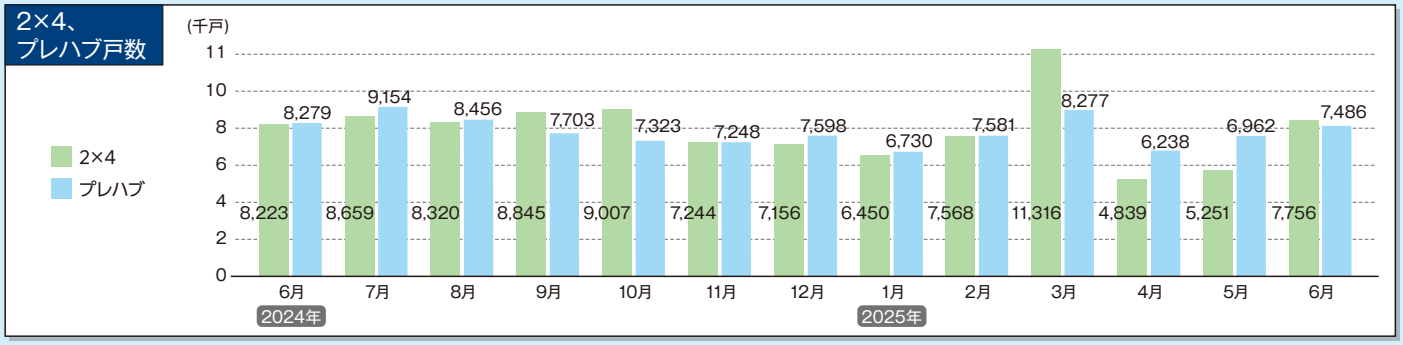
＊ 家具などのインテリア品は実際の展示と異なる場合があります

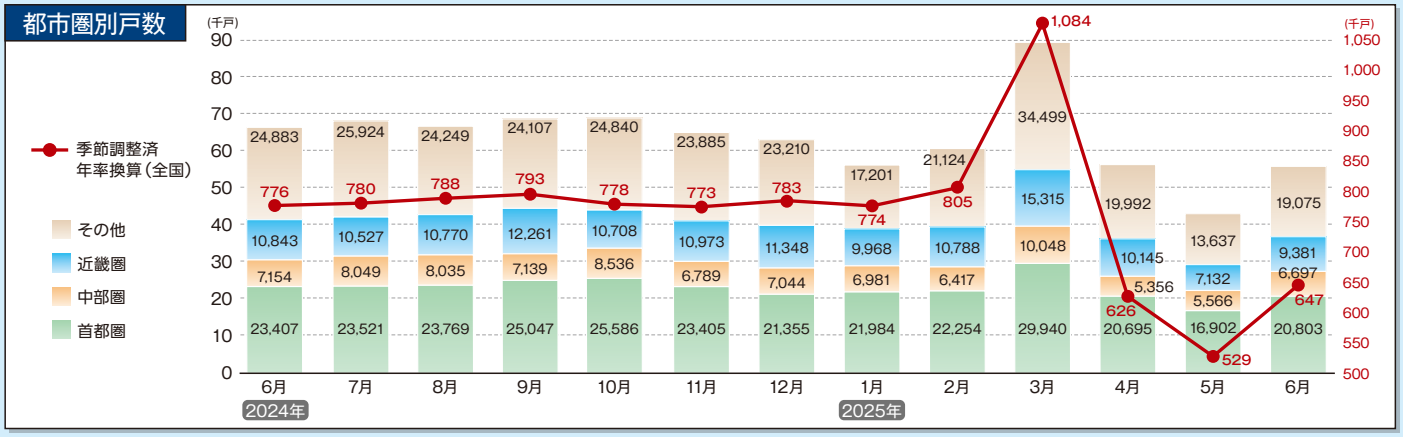
2025年6月の新設住宅着工戸数　単位：戸　▲は減

		6月	対前年同月比		対前々年同月比		5月	4月	3月
新設住宅計		55,956	▲ 10,331	▲ 15.6%	▲ 15,059	▲ 21.2%	43,237	56,188	89,802
建築主別	公共	797	220	38.1%	▲ 22	▲ 2.7%	599	994	1,095
	民間	55,159	▲ 10,551	▲ 16.1%	▲ 15,037	▲ 21.4%	42,638	55,194	88,707
利用関係別	持家	16,030	▲ 3,153	▲ 16.4%	▲ 4,295	▲ 21.1%	11,920	13,635	22,955
	貸家	24,289	▲ 3,944	▲ 14.0%	▲ 5,823	▲ 19.3%	18,893	24,939	42,706
	給与住宅	562	52	10.2%	68	13.8%	500	1,466	469
	分譲住宅	15,075	▲ 3,286	▲ 17.9%	▲ 5,009	▲ 24.9%	11,924	16,148	23,672
	うちマンション	5,945	▲ 2,296	▲ 27.9%	▲ 2,477	▲ 29.4%	4,778	7,709	10,807
	うち戸建	8,921	▲ 1,086	▲ 10.9%	▲ 2,685	▲ 23.1%	7,083	8,169	12,573
資金別	民間資金	50,496	▲ 11,060	▲ 18.0%	▲ 14,409	▲ 22.2%	39,303	50,830	81,481
	公的資金	5,460	729	15.4%	▲ 650	▲ 10.6%	3,934	5,358	8,321
	公営住宅	718	246	52.1%	31	4.5%	574	780	950
	住宅金融機構融資住宅	1,451	▲ 85	▲ 5.5%	▲ 615	▲ 29.8%	847	1,353	1,947
	都市再生機構建設住宅	0	0	—	0	—	0	0	119
	その他住宅	3,291	568	20.9%	▲ 66	▲ 2.0%	2,513	3,225	5,305
構造別	木造	33,794	▲ 4,565	▲ 11.9%	▲ 5,878	▲ 14.8%	24,563	29,657	51,838
	非木造	22,162	▲ 5,766	▲ 20.6%	▲ 9,181	▲ 29.3%	18,674	26,531	37,964
	鉄骨鉄筋コンクリート造	538	114	26.9%	23	4.5%	482	368	1,325
	鉄筋コンクリート造	13,851	▲ 4,691	▲ 25.3%	▲ 6,192	▲ 30.9%	10,709	18,770	27,177
	鉄骨造	7,750	▲ 1,162	▲ 13.0%	▲ 2,983	▲ 27.8%	7,401	7,336	9,412
	コンクリートブロック造	17	▲ 16	▲ 48.5%	▲ 21	▲ 55.3%	28	37	36
	その他	6	▲ 11	▲ 64.7%	▲ 8	▲ 57.1%	54	20	14









(出典：国土交通省ホームページ　http://www.mlit.go.jp/statistics/details/jutaku_list.html)

建材マンスリー
No.718
AUGUST
2025
8
昭和39年8月創刊　第62巻　令和7年8月1日発行（毎月1日発行）　通巻718号
発行人／細谷 洋一　発行所／建材マンスリー編集室　〒100-8270 東京都千代田区大手町1-3-2（経団連会館）
住友林業株式会社　木材建材事業本部　業務企画部

安全で快適な住空間を創る YOSHINO

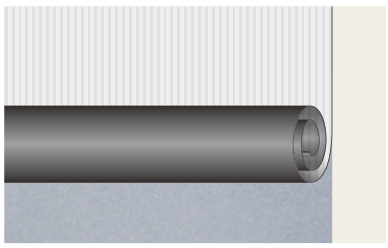
磁石がつく せっこうボード

タイガーFe（エフィー）ボード

せっこうボードに着磁体がついているから、特別な施工を必要とせず、
従来のせっこうボードとほぼ同じ施工で磁石がつく壁がつくれます。
従来のせっこうボードの性能＝加工性／仕上げの自由度／寸法安定性

「学校」に
画びょうが要らず、お子様にも安心。

「オフィス」や「病院」に
壁全体が掲示板になります。



「百貨店」などに
マグネットシートを使えば、簡単に模様替えができ、
施工時間が短縮。

YOSHINO
安全で快適な住空間を創る 吉野石膏

本社／〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル
●お問い合わせは：吉野石膏DDセンター 03-3284-1181

yoshino-gypsum.com
「快適空間ガイド」カタログをご覧ください！▶